

呼和浩特市を訪問して感じたこと

岡崎市 社会文化部 国際課 竹谷昌祐

呼和浩特市で開催された第2回呼和浩特市青少年サマーキャンプに岡崎市高校生3名と共に参加しました。今回が当市からは初めての参加となりましたが、個人的に初めての中国訪問であり、日本とは異なる様々は物事に触れる機会をいただけ、本派遣に同行させていただいた事に感謝申し上げます。また、今回の訪問では大雨の発生等で度重なるスケジュール変更が発生し、参加者にはその都度ご不便をおかけしましたが、柔軟に対応していただいたことにお礼申し上げます。今回の派遣を契機に、参加された高校生の皆様と関係者の方々がさらに多文化共生の輪を広げていただく一役を担っていただければ大変ありがたいと考えています。

初日の歓迎夕食会は韓国チームの到着遅れ（飛行機の遅延のため翌日に到着した）により呼和浩特市、モンゴル国、ロシア、岡崎市で行いました。食事中は当市を含め、どのテーブルの参加者もたちまち打ち解け、今日出会ったばかりとは思えないぐらい会話に花が咲いていました。今回の訪問の共通言語は英語で行うという指示が呼和浩特市側からあったこともあり、参加者は英語でコミュニケーションをとっていました。他国の参加者の英語能力にバラつきはあるものの会話は弾んでいて、「お互いに



夕食会で歌を披露



夕食会での歓談

理解したいという熱意」と「伝えたいモノ」があれば、文法や発音などは二の次だという基本的なことに再認識させられた瞬間でした。道具（英語）を使えるように努力することは確かに必要ですが、道具（英語）に振り回されるのはナンセンスだと感じました。また夕食会の最中に、日本とは比較にならないほどに歌が登場し、彼の地の人の中にとっても自然に音楽が宿っているということも発見でした。

呼和浩特市到着以前に連絡を受けていた事からの変更もたびたびありました。大雨等の自然条件以外にもそれは発生していました。事前の通告なしに予定が変わることは中国ではよく聞くことですが、実際にそのことを体験するのは当初かなり戸惑いました。しかし徐々にそのような現実にも慣れていき、さらに「常に物事の最適化を意識しているから、予定変更は悪いことではない」という中国側担当者の言い分にも一理あると思えました。自身の仕事上、予定を綿密に立て、それを確実に執行することを求められていますが、変化するニーズに柔軟に対応する姿勢は学ぶべき点であると認識しました。



学校の舞台上で歌を披露

十六中学校（日本の中学高校にあたる）でのサマーキャンプ開会式では各国の紹介をするDVDが上演されました。紹介されたDVD画像は、いずれもそれぞれの国のすばらしさを高らかに歌い上げるメッセージ性が強く、岡崎市紹介DVDが観光資源をアピールするものだったのとは異なり、それぞれの国の個性のようなものが垣間見え、とても興味深いものでした。また内蒙古自然歴史博物館では入口大広間の壁面に習近平主席のスローガンが大きく掲げてあったり、内蒙古自治区の近代史について詳細な展示がなされており、日本ではなかなか見かけない類のもので、中国に来たことを強く認識しました。



DVD画像（ロシア）

呼和浩特市では随所で訪問者を歓待しようとする並々ならぬ熱意を感じました。到着後すぐに、中国側担当者が参加者に対してホストファミリーからご馳走になりたい食事要望を細かく聞き取りしていただき、その結果全員が希望通りの食事をする事が出来ました。また、十六中学校で学生が披露してくれた演舞は間違いなく今年になって私が見た舞台の中で最高でしたし、移動バスに乗る度ごとにミネラルウォーターを進められ、18本もペットボトルをリュックサックにためてしまった参加者もいた程でした。さらに、日本語通訳員を同じホテルに常駐させてくれたおかげで、夜間に私の部屋だけが停電した際にも迅速に対応していただき、無事に代替部屋で安眠することができました。そして今回は10年に一度の大雨（呼和浩特市担当者談）に見舞われ、道路が水没する状況も一時ありましたが、提供されたプログラムの1つ1つに工夫が見られ、当初の予定から大幅に内容変更を迫られたにも関わらず、参加者を満足させていただけた手腕には頭が下がる思いでした。



内蒙古民族衣装を試着

草原体験の時にバスを停めた駐車場のトイレはいわゆるニーハオ・トイレ（トイレ施設の中に仕切り等は一切なく、男性大用に地面に穴を5か所掘ってあり、男性小用に3m×30cm程度の板が1枚土に埋め込んであるだけの作り）。トイレに入ろうとすると、外まで「う～ん」と声が聞こえ、実際に入室すると、入口を向いたまましゃがんで用を足している「声の主」と視線が合い、正しく「ニーハオ」状態でした（心の中でニーハオと挨拶した）。また、見渡す限りどこまでも広がる草原の中に簡易な休憩所があり、その中には自動販売機が設置されており、その自動販売機は現金には対応せずスマホ決済のみ。このハイテクと非ハイテクのコントラストになんとも不思議な中国の魅力を感じました。活力があり個人主張も強い中国人から学ぶことも沢山ある一方で、日本や岡崎市の良さを再認識することの出来た訪問となりました。



参加者と呼和浩特市担当者